



2023年5月10日

各位

会社名 株式会社淀川製鋼所  
代表者名 代表取締役社長 二田 哲  
(コード：5451、東証プライム市場)  
問合せ先 IR室長 出口 尊之  
(TEL. 06-6245-1113)

## 淀川製鋼グループ中期経営計画 2025 策定のお知らせ

この度、当社グループの中期経営計画 2022 の成果を総括し、『淀川製鋼グループ中期経営計画 2025』(以下、「中期経営計画 2025」といいます。)の策定を行いましたので、その概要をお知らせ致します。

記

### I. 「淀川製鋼グループ中期経営計画 2022」の振り返り

#### 1. 中期経営計画の主要施策に対する成果

基本戦略	主要施策に対する成果
A. 機動力を活かした収益構造の強靱化	<ul style="list-style-type: none"><li>・外装パネル商品、エクステリア商品の生産・販売体制の再構築</li><li>・金属屋根商品の販売体制再構築に向け代理店とライセンス契約を締結・拡大</li><li>・高機能塗装鋼板の発売、ヨド物置エスモのモデルチェンジ(福井ヨドコウへの生産移管)</li></ul>
B. 新しい分野への挑戦	<ul style="list-style-type: none"><li>・他社との協働による新規事業創出に向けた検討を推進</li><li>・コラボ物置発売による新たな顧客層の開拓</li><li>・新デザインブランド「YODOKO+」を立上げ</li></ul>
C. 持続可能な経営基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"><li>・株主還元として安定配当、増配</li><li>・ガバナンス機能充実のため「指名・報酬委員会」を設置</li><li>・コンプライアンス強化としてリスクマネジメントを導入</li><li>・サステナビリティ推進に向け「サステナビリティ推進室」を設置</li><li>・DX 推進の一環として IT 関連企業を買収</li></ul>

#### 2. 目標に対する結果

- ・ 目標 2022 年度： 連結経常利益 90 億円以上
- ・ 結果 2022 年度： 連結経常利益 176 億円

国内事業では、資源・エネルギー価格の高騰等、原材料を中心にコスト負担は増加したものの、鉄鋼市況の動向にあわせ機動的に販売価格の改定に努めたことにより、計画値を上回る結果となりました。一方、海外事業では、インフレ抑制のための金融引き締め、長引く中国のゼロコロナ政策による事業環境の悪化等により伸び悩む結果となりましたが、グループ全体では目標を大きく上回る業績を達成しました。

(ご参考) 連結経常利益実績

2020 年度	2021 年度	2022 年度
9,792 百万円	17,916 百万円	17,686 百万円

## II. 当社グループの事業環境に係る認識

- 日本国内においては、人口減少・少子高齢化等の要因から中長期的に鉄鋼及び建設関連需要は縮小傾向にあり、機能・品質・コスト等のニーズの多様化と高度化が進んでいます。また、環境・高付加価値商品の開発力・技術的優位性の強化に向けて、生産設備集約による効率化や経営資源の選択と集中への動きが強まっています。
- 国内、海外市場ともに地政学的リスクの高まりによる資源価格の高騰の影響を受けることが予想されるとともに、海外市場においては、米国をはじめとする各国の保護主義的政策等、海外経済の減速懸念により、引き続き、不透明な状況が続くものと想定されます。
- また、世界的な環境意識の高まりから、脱炭素社会実現への取り組みがより一層加速することが予想され、規制強化への対応やSDGs 達成に向けた事業展開が求められます。
- このような事業環境の中で、当社グループは、国内外に複数の製造・販売拠点をもち、原板から川下製品まで一貫した生産体制を敷き、幅広い商品・技術による多様な事業展開を行ってまいりました。これまでに培ってきた良好な財務体質、顧客・取引先等からの高い信用、また独立系企業ならではの迅速な意思決定と実行を当社の競争力の源泉とし、創立 100 周年を見据え、新しい分野への挑戦や持続可能な経営基盤を構築し、収益構造の更なる強靱化を図ることが、今後の課題であります。

## III. 長期ビジョン

淀川製鋼グループ長期ビジョン



### 1. 「桜(SAKURA)100」の考え方

- 当社は創立 90 周年にあたる 2025 年に向けて、規模の追求よりも中身の充実を重視し、いかなる事業環境下でも安定的に利益を計上し持続的に成長できる企業を目指します。
- 「桜(SAKURA)100」を長期ビジョンとして掲げ、当社のシンボルマークである桜のように、様々な環境の変化に順応するたおやかな姿、新しい事業領域に挑戦し花を咲かせる姿、グローバルに愛され永く花を咲かせる姿を目指し、連結営業利益 100 億円を安定して計上できる 100 年企業への発展を実現してまいります。
- 長期ビジョン「桜(SAKURA)100」の詳細は、添付資料をご参照下さい。

### 2. 中期経営計画 2025 の位置づけ

中期経営計画 2025 においては、これまでの取り組みを振り返り、成果を定着させるとともに、長期ビジョン「桜(SAKURA)100」の実現に向け、成長・拡大路線へ舵を切ってまいります。

また、「Link to the Future」を本中期経営計画期間のキャッチフレーズとして掲げ、さらにその先の未来へつながる重要な期間と位置づけております。

2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026~2035	2035
中期経営計画 2019			中期経営計画 2022			中期経営計画 2025 ~Link to the Future~			長期ビジョン 「桜 100」	100 年企業 への発展
<準備期間> 体制作り 施策検討・実行			<助走期間> 施策展開			<確立期間> 成果定着				

#### IV. 「淀川製鋼グループ中期経営計画 2025」～Link to the Future～の策定 (2023 年度～2025 年度)

##### 1. 中期経営目標

- ・連結営業利益：100 億円以上の安定計上(中期経営計画 2025 期間)
- ・ROE (自己資本当期純利益率)：5%以上 (2025 年度)

中期経営計画 2025 においては、目標指標を連結経常利益から、長期ビジョン「桜(SAKURA)100」で掲げる本業で得た利益である連結営業利益に変更し、収益力のさらなる強化に向けて取り組んでまいります。

また、利益目標に加え、ROE (自己資本当期純利益率) を新たな目標指標として設定し、安定的に 5%以上を達成できる状態を目指すとともに、中長期的にさらなる資本効率の改善に向けて取り組みを進めてまいります。

##### 2. 基本戦略

「収益構造の更なる強靱化」「新しい分野への挑戦」「持続可能な経営基盤の構築」を基軸とする以下の 6 項目を基本戦略とし、施策を展開してまいります。

<p>A. 収益構造の更なる強靱化</p> <p>A-1. 成長のための既存ビジネスの拡大</p> <p>A-2. ものづくり力の底上げ</p>	<p>B. 新しい分野への挑戦</p> <p>B-1. 既存事業を基盤とした新分野の開拓</p>
<p>C. 持続可能な経営基盤の構築</p> <p>C-1. 将来を見据えた積極的投資と資本効率向上</p> <p>C-2. 次世代を担う人材の育成と組織力強化</p> <p>C-3. 全てのステークホルダーとの共生</p>	

##### 3. 事業戦略

###### ①鋼板関連事業

###### <鋼板事業>

- ・多様化する顧客のニーズを細やかに捕捉するとともに、外部要因に左右されない新用途の開拓・拡販に取り組み、安定した収益基盤を構築してまいります。
- ・高付加価値商品の拡販に取り組むとともに、アライアンスも視野に入れた市場獲得に取り組んでまいります。
- ・IoT 活用による自動化・デジタル化を推進し顧客に信頼される品質の追求に取り組むとともに、生産性向上、環境対応等計画的な設備更新を実施し、各設備能力を最大限生かした生産量の維持拡大を図ります。

###### <建材事業>

- ・外装パネル商品の品質、生産性の向上に努め、需要増加に柔軟に対応できる生産・販売体制の構築に取り組みます。
- ・金属屋根商品の収益安定化を図るために、ヨドロープ認定代理店との協働による拡販に努め、さらなる収益力強化に取り組みます。

###### <エクステリア事業>

- ・顧客の多様なライフスタイルに合わせた商品開発を行い、商品ラインナップの拡充に取り組むことにより、収益の拡大を目指します。
- ・既存商品群の安定供給に向けて、大型商品（倉庫、自転車置場など）の福井ヨドコウ(株)への生産移管をはじめとする生産・物流体制の構築を完遂させ、生産性・収益力の向上を図ります。

- 異業種とのコラボレーションによる高付加価値商品の開発・拡販に取り組み、ブランド力向上、販売数量の増加を目指します。

#### <海外事業戦略>

- 鋼板事業においては、拠点ごとの販売戦略のもと、アジアを中心にあらゆる地域における表面処理鋼板の需要を捕捉してまいります。  
当社グループの拠点：当社（日本）、SYSCO 社（台湾）、YSS 社（中国）、PPT 社（タイ）
- 世界各地域における保護主義的措置の影響に左右されない強固な販売ネットワークの構築を目指して、SYSCO 社を中心に、貿易障壁のない各国への拡販、新たな海外市場の開拓に取り組みます。
- 当社グループがこれまでに培った表面処理鋼板に関するノウハウの蓄積を活かして、各地域の市場で優位性を有する高付加価値商品・差別化商品の拡販、ブランド力の更なる向上に取り組みます。
- 中国・台湾市場における鋼板事業と建材事業の協働・連携により、グループ全体の競争力強化を図ります。

#### ②ロール事業

- これまでに培った製造技術を活かして、新規分野の需要を開拓するとともに、高付加価値ロールの拡販に取り組み、収益力強化を図ります。

#### ③グレーチング事業

- 主力の道路分野の需要捕捉強化に加え、道路分野以外における新規顧客の獲得や新しい流通体制の構築を推進するとともに、さらなる業務の効率化に取り組み、売上・利益の拡大を図ります。

#### ④不動産事業およびその他事業

- 不動産事業では、保有不動産の用途開拓をはじめとする資産の有効活用に取り組むことで、グループの収益力向上に貢献してまいります。
- エンジニアリング事業では、強みである技術サービス力を活かして、新規販売品目の増加、新規顧客の開拓に取り組み、収益力の改善を図ります。
- 新事業の事業化に専従組織がスピーディーに取り組み、当社事業の将来の柱となる新たな収益源の積極的な開拓に取り組みます。

### 4. 資本政策

#### ①基本方針

- 当社は「株式会社淀川製鋼所 コーポレートガバナンスガイドライン」のなかで、資本政策の基本方針を定めております。

< <https://www.yodoko.co.jp/assets/pdf/ir/management/governance/governance.pdf> >

#### ②中期経営計画 2025 期間中の考え方

- 本中期経営計画期間においても、長期化するウクライナ紛争、欧米の金融引き締め政策に伴う景気減速懸念、日本における大規模金融緩和の出口の見通し、そしてアジアにおいて高まる地政学的リスクなど、当社グループを取り巻く経営環境は一層厳しさが増し、大きく変動することを想定しておく必要があります。
- このような不透明かつ厳しい環境の中で当社グループが持続的に成長していくためには、当社グループの強みである機動力を引き続き発揮するとともに、既存事業における競争力強化と新

しい事業領域の開拓、持続可能な世界を実現するための環境対応、そして事業活動の全ての基盤となる人的資本の充実などに優先的に資金を充当することが求められ、これらの裏付けとなる強固な財務基盤を維持することが重要です。

- 当社は自社の資本コストを定期的に分析しており、資本コストを上回る資本効率を実現するために、既存事業における投下資本利益率の向上、ならびに積極的投資による非事業資産の事業資産への組み換えにより、資本効率の向上に取り組めます。
- 株主の皆様への利益還元としては、配当金のお支払いを重視することとし、設備投資計画ならびに財務状況等を踏まえ、年間配当金として1株あたり50円以上を維持したうえで、「業績に応じた配当のお支払い」の指標としては、連結配当性向年間30%以上を目途といたします。

## 5. 設備投資計画

### ①中期経営計画 2025 期間中の考え方

- 生産効率向上やコスト低減、品質向上など競争力強化を目的とした戦略的な投資を優先的に実施し、また、既存事業の継続に必要な老朽設備・施設の更新も計画的に実施いたします。
- CO2 排出量削減に寄与するサステナビリティ関連の投資や、レガシーシステムからの脱却を含む DX 関連投資についても計画的に進めてまいります。

### ②設備投資額

- 2023 年度～2025 年度の連結総投資額は、200～250 億円規模を計画し、その内訳としては、競争力強化に 75～110 億円、既存事業基盤の維持に 80～100 億円、サステナビリティ関連に 25～30 億円、DX 関連に 20 億円とします。

## 6. ステークホルダーとの共生

当社グループの事業活動のキーワードである「安全」「安心」「環境」「景観」をあらゆる事業活動に展開することにより、様々なステークホルダーの期待に応えてまいります。

### ①株主・投資家

- 企業価値の向上
- IR 施策の充実、情報発信の強化

### ②顧客・取引先

- 全社的な品質管理体制の強化
- ブランド力の強化
- 取引先とのパートナーシップの維持向上

### ③従業員

- 組織・人材の活性化に向けた制度設計、教育システムの構築
- IT ツール導入やデジタル化推進による省力化・業務効率向上

### ④社会・自然環境・その他

- ガバナンス体制のさらなる強化
- サステナビリティ推進  
(省エネ・創エネによる CO2 削減、再生可能エネルギーの段階的な導入)
- 全社的なシステム再構築による IT 基盤の強化

以 上

<添付資料> 淀川製鋼グループ長期ビジョン「桜(SAKURA)100」

## 淀川製鋼グループ長期ビジョン「桜 (SAKURA) 100」

当社は 2025 年の創立 90 周年に向けて、さらには 100 年企業への発展を見据えて、当社のシンボルマークである桜のように、新たな領域に挑戦する心と変化に順応する機動力を持って、持続的に成長いたします。



### たおやかな桜

桜は地域ごとの多様性を持つ植物として知られ、また人の手で、花の色・形、樹の形、虫害や寒暖への強さなど、様々な特徴を持った品種への改良が行われています。  
様々な環境の変化にたおやかに順応し、様々な個性を持つ桜のような姿を、当社グループは目指します。

### 花咲く桜

桜は毎年新しい花を満開に咲かせ、私たちは桜の開花を心待ちにします。毎年新しい花を咲かせる桜のように、新しい事業領域に挑戦し続ける姿を、当社グループは目指します。

### SAKURA

桜は日本で最も愛される花であり、日本を代表する花「SAKURA」として海外でも愛されています。また、桜は生命力にあふれた長寿の木であり、樹齢が千年を超える木にもなります。  
グローバルに愛され、永く花を咲かせるSAKURAのような姿を、当社グループは目指します。

## ロゴマーク意匠の説明

淀川製鋼グループ長期ビジョン



- ①数字 100 の右側の 0 を示す桜色の円と SAKURA の末尾の A を組み合わせ、桜の木をイメージ（「桜」は「桜の木」を表している）
- ②数字 100 の左側の 0 を示す赤い円は、日の丸、さらには日系企業グループをイメージ
- ③漢字の「桜」はロゴマーク「淀川製鋼所」と同じ書体を使用